

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.172

2014/03/25

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

積雪量少なかった今冬・春に新雪

展望場から新雪の湿原(14/03/10)

湿原での積雪が1mにもならなかった今冬、いよいよ春本番と思っていた矢先の3月10日には上の画像のように冬に逆戻り。こんな年は滅多に無かったのでは?とちょっと過去を見直すことにしました。

(13/03/09)

(12/03/10)

(11/03/09)

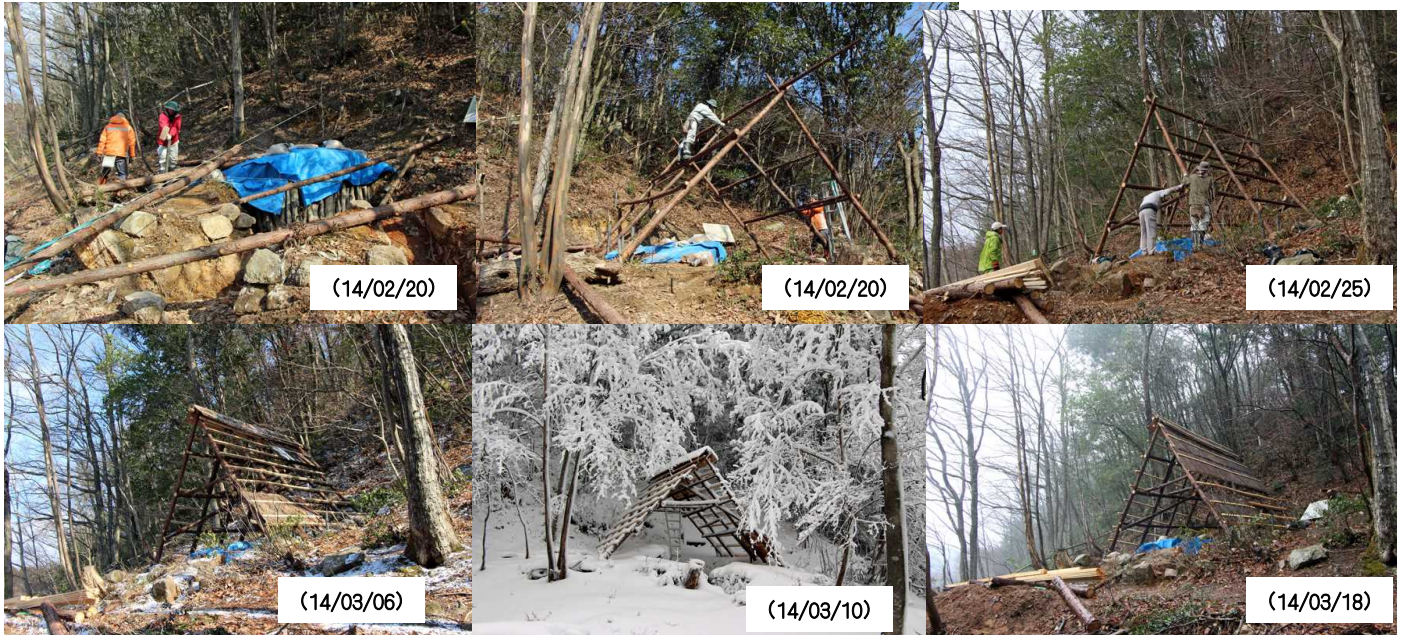
(10/03/08)

(09/03/10)

こうして何年か並べて見るとこの時期の積雪も特別では無いことが分かります。2009年が雪の少ない記憶が鮮明に残っているのは、その年に2月から保全作業を精力的に行ったことが記憶に残っているためらし

い。記憶とは如何にいい加減なものかと思ひ知らされます。デジタルの時代について行けなくて日々狼狽する編集子ですが、やっぱりマニュアルがものを言うことも多いものです。そういう意味では、『山門水源の森一里山の再生と保全の10年』(記念誌)を刊行できたことは本会の大きな財産です。刊行から既に4年、その間の保全活動も更にレベルアップしてきましたが、獣害をはじめとする課題も次々出ていますが、新体制への移行を機に次のステップへ進みたいものです。

沢に初訪問?オシドリ(14/03/10)



(14/02/20)

(14/02/20)

(14/02/25)

(14/03/06)

(14/03/10)

(14/03/18)

2013年10月7日土砂で埋まった炭窯遺構の土砂排出、10月19日の窯打ちで昨秋の仕事は一段落。今年積雪量が少なく2月中旬には、炭窯周辺は完全に雪融け。これを待って屋根造りに取りかかりましたが、3月に入って何回かの降雪で作業は断続的に行われましたが完成には今少し時間がかかります。春からのガイドシーズンには間に合うはず。「薪炭林」の生物多様性の保全の解説に一段と深みが増します。屋根に使った柱や梁は、沢沿いで行った間伐材を利用しています。かなり頑丈に作れていますので、場合によっては夜間観察の基地としても利用できます。



ブナの森 (14/02/28)

ブナの森の実生 (14/02/28)

楽舎で育種中の実生 (14/02/28)

2011年豊作だったブナは、翌2012年春大発芽となったものの今は探し出すのも難しいくらいに減少しています。ところが楽舎で育苗しているものは一部が昨夏の水遣りを怠ったため枯れたものもありますが、大半は順調に生育しています。この苗は地域の子どもたちや他府県から保全活動体験に来る子どもたちに植樹の楽しみ(将来への希望)を味わせるのに最高の材料です。次の豊作は2016年のはず、その折には大量に採種して大規模に育苗したいものです。楽舎ではユキバツバキも試験的に育苗しています。昨年6月いろいろな花色枝を採取し挿し芽を行いました。これは管理が良かったため全部が発根し、10月に植え替えを行いました。この経験を生かして今年は大量に挿し芽を行う予定にしています。



楽舎で育種中のユキバツバキ (14/02/28)



沢のバイカオウレン (14/03/18)

そのためには、採取する差し穂の花色・花形などを開花時に確認してマーキングをしておく必要があります。4月12日に本会主催で『ユキバツバキ観察会』を開催しますが、それ以前に下見を兼ねてマーキングの作業を行う予定です。森の現況は、ショウジョウバカマが咲きはじめ沢道ではバイカオウレンがピークを迎えています。このバイカオウレンもシカの食害で年によって見映えのする地点が替わります。ゆつたりと良い場所を探し出して下さい。